

## 別記様式第5号（第6の2関係）〔1枚目〕

## 佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

評価日 平成28年3月31日

団体名	高齢者生活協同組合 おもしろ倶楽部	
事業名	行き場・居場所としての【ふれあいサロン】の開設	
対象経費	200,000円	支援金額 100,000円

事業の目的・内容	目的  閉じこもりがちな高齢者や中高年の方の行き場・居場所、また趣味を楽しむ場として、昨年にひきつづき「ふれあいサロン」を設置し、社会参加・地域に出るきっかけづくりとした。今年度は新たなニーズのもと、ハモニカや百人一首などが始まり、提案者が積極的に進めてくれるので参加型のサロンになってきた。また従来から実施してきた「脳イキイキ楽習塾」や協同畠による生活困難者への支援活動も継続した。これ等を通して介護予防の観点と安心な仲間づくり・地域づくりを目指した。
	内容  1. ふれあいサロンは、ハモニカと百人一首が加わり5つのサロンとなり、かねてやりたかったという人の新たな生きがいづくりになっている。月1~2回で参加費200~300円とした。 2. 脳イキイキ楽習塾は毎月定期的にプログラムに沿って講義や運動・ゲーム、参加型の音読や歌などを計画し受講してもらう、小諸~小海まで広く佐久地域からの参加がある。 3. 講演会は地域の支えあい、寄り合い場作りを考えるため、地元の実践者に学んだ。 4. 協同畠ではジャガイモと玉ねぎを栽培し、山谷や新宿などの炊き出しグループに送った。

事業の活動実績	1. ふれあいサロンの1年間の述べ参加者数は、かご編みサロン248人、絵手紙サロン51人、囲碁将棋麻雀サロン77人、ハモニカ74人、百人一首19人の計469人であった。かご編みは次々と新たな人が加わり月2回になり、手づくりの楽しさと交流の場になっている。百人一首は早取りを競う教室ではなく、内容を味わいゆっくり札を取る高齢者向けの遊び方を試みており、四季のベンチの施設利用者さんも「昔よくやったから」と日々参加され、遊び方の工夫が始まった。ハモニカは懐かしい音色が好きだと、参加者が楽譜を見ながら楽しんでいる。 2. 脳イキイキ楽習塾は参加者が毎年同じ方になり、内容に工夫を要する状況が出てきたが、なかには90歳代の女性が毎年続けて参加し、皆さんと勉強するのが楽しみだと誘い合って受講され、老い方の手本を示してくれている。 3. 講演会は、介護保険改定に伴う地域での居場所や交流の場の要求にどう対処するかを考えるため、地元の実践者として「えんがわぼっこ」や「御代田地区社協」「地域の保健室」「高齢協のサロン活動」の事例を聞き、約120人の参加があり好評だった。歩ける範囲のところで、どこの地域でもできるためにはどうするか、が今後の課題である。 4. 協同畠活動は2008年から始めているが、今年もジャガイモと玉ねぎの収穫物を贈った。秋には恒例の東京などの炊き出しグループや食材の受け取の施設との交流会があり、路上生活など生活困難者の生の声や、覚せい剤からの更生の深刻さに取り組むグループの方の実話を聴けて、身を引き締める大事な機会となっている。この交流会に初めての方々を誘ったところ、知らないことが多くもっと貧困問題などを考えたいと日々にいってくださった。
---------	---



## 別記様式第4号〔2枚目〕

事業の成果・効果	1. サロン活動には、いろいろな要望が出始め、料理や手芸などの声も出ているが、4月から「楽しく歌う会」や「笛吹き仲間」のサロンが始まることになった。みんな気軽に安く自由に集まる場所が欲しかったといっている。参加者は60~70歳代がほとんどで、7割の方はカゴづくりや絵手紙は始めての挑戦で、「やってよかった」「楽しい」「続けたい」とアンケートに答え、新たな楽しみごとや生きがいになっているようである。また、絵手紙は宅配弁当の「米ちゃん弁当」に添えて利用者さんに配布してもらうなど暖かい交流となっている。3月のおもしろ倶楽部員手作りのひな祭り展では、隣接の小規模多機能施設「四季のベンチ」の利用者さんと、展覧会場で歌や絵本読み聞かせなどで交流し、毎日やりたいなどと希望が出た。次第にそれぞれのサロン参加者が、身近な施設やほかの関わりの場で活動に生かして下さるようになってきた。 2. 講演会では、白田地域の先進的な試みが報告され、「これから自分たちのあり方がわかり良かった」「自分も閉じこもらず地域に参加したい」「具体的なテーマでとてもよかったです」「今後もこの問題を続けて考える場を作りたい」と取り組みへの期待や、今後の課題も寄せられ有意義な会となった。 3. 協同畠の活動は自分たちの収穫量は少ないものの、我々の活動を伝え聞いた方々が、野菜やコメが余っているからとコメなどを高齢協に届けてくださるようになり、高齢協が中継基地になって、フードバンクをお手つだいできるようになってきた。今後身近な佐久エリヤでの子供食堂やシルバー食堂など、お茶のみをきっかけに、食で輪を広げる支え合いが求められていると考える。
----------	--

自己評価	事業は申請どおり実施できた	1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった	主な理由（3、4と答えた場合のみ）
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった	主な理由（3、4と答えた場合のみ）
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ 2 少多少の変更があった 3 大幅に変更している	主な理由（2、3と答えた場合のみ）
	その他、評価すべき点等	これ等の活動を通して、少しでも社会参加へのきっかけとなり、生きがい形成になって独り暮らしでも独りぼっちにならないよう、「ひとりぼっちにならないしない」という高齢協の理念にいかにかかづき、触れ合える場となったかと考える。	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	サロン活動が盛んとなり、曜日がびっしりと埋まりまさしく「いつ来ても何か楽しいことをやっているサロン」となり、うれしい悲鳴になってきたが、これらのサロンが単なるカーリヤにならずに、要支援に近いような、外に出るチャンスの少ない方を誘いつつ、相互の交流で元気の継続につながるようこころしたい。次年度は佐久っと支援金の総仕上げの年なので、介護問題を地域で住民主体の形で支えあう仕組みづくりや、移動支援の課題、また地元の貧困問題への対応としての子ども食堂やシルバー喫茶、認知症対応の居場所などの、具体化を検討したいと話し合っている。「独りぼっちにならないしない」という高齢協の理念からしても、この問題を追求したい。
---------	--